

(表紙)

「人の一生

祝儀控帳

深井家

はじめに

『お七夜祝儀控』『紐直祝儀控』『結婚披露祝儀控』等は人の一生に関わる文章で、人生の節目ごとに行われた儀礼を祝って、親類・村人から贈られたお祝いの品や祝いの記録です。

収録した記録は『寛政六年(一七九四)お美恵(当家五代目の長女)紐直祝儀控』から平成元年(一九八七)真理子(当家十代目の長女)結婚披露祝儀控』までの三十六冊で約二百年間の記録です。

こうした儀礼は、古くからおこなわれていたようですが、寛政以前の記録は見あたりませんでした。

お祝いには、産着や布地のほか半紙・麻・苧(からむし)・鯉節・するめ・砂糖などが贈られていることが注目されます。

江戸時代の貨幣の表示は両・分(ぶ)・朱・疋(ひき)・文(もん)などでそれに祝儀・不祝儀の使い方があってややこしく、一文は計算の仕方で多少の相違があります。現在の十五円位に相当します。

なお、本編の随所に参考として儀礼の由来を記しました。

天和年中(一六八一〜八三)に初代伊右衛門が百間村川島(宮代町)の五左衛門家から清地村(杉戸町)へ分家して、二代目浅右衛門が享保中期(一七一六〜三五)頃旗本五千石酒井安房守家の割元名主(数ヶ村に年貢を割り当てること)をまかされた名主となり以後、「一新まで世襲し、明治期には戸長をつとめました。

目次

近世

文化七年おてるお七夜祝儀控

お七夜

文化九年磯五郎お七夜祝儀控

お宮参り

文化十二年喜司お七夜祝儀控

天保九年おさわお七夜祝儀控

天保七年伊助初着控

寛政六年お美恵紐直祝儀控

お食い初め

文化十二年おてる紐直祝儀控

文政三年喜司紐直祝儀控

嘉永六年おぬい紐解祝儀控

七五三の振る舞い

七五三の宮参り

産育

おてる婚礼祝儀控

雛祭り

天保三年喜治婚礼祝儀控

端午の節句

慶応三年おぬい婚礼祝儀控
成人式

明治

明治十年おいち祝賀聘礼大豊恵
明治十四年浅右衛門お七夜祝
仲人
蕎麦とうどんの値段

明治十四年浅右衛門端午祝覚
結納・お色直し

明治十六年伊左右治初ノ節句

〃 二十九年出産見舞(堀口義一)

〃 三十八年伊左雄出産見舞控

〃 四十一年春枝出産見舞控

綿帽子

嫁入り

明治十四年伊智紐解祝儀帳

〃 五年兵治祝儀(婚礼)控

〃 二十八年伊智祝儀(婚礼)控

〃 三十七年伊左右治結婚披露控

江戸時代の貨幣制度

大正

大正七年伊左武出産見舞控

昭和

昭和二十九年真理子出産見舞控

〃 三十一年哲夫出産見舞控

〃 五十九年むつみ誕生諸祝控

〃 六十二年智之誕生諸祝控

昭和三十六年真理子・哲夫七五三祝

〃 六十二年むつみ三才の祝

〃 十三年伊左武入宮控帳

〃 二十八年滋男結婚披露控

〃 二十九年百合子婚礼祝儀控

〃 五十四年哲夫結婚披露控

平成

平成元年真理子結婚披露控

七升

五升

五升

三升

五升

五升

五升

三升

三升

三升

五升

五升

五升

三升

五升

三升

彦八

六左衛門

政治郎

平次郎

半蔵

伊兵衛

藤蔵

平右衛門

長兵衛

藤次郎

弥兵衛

惣右衛門

太右衛門

多吉

至宝院

治兵衛

同 十七日 立ぜん

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同 政二郎様

油屋藤蔵様

濱田六左衛門様

梅鉢屋伊兵衛様

井桁屋半蔵様

井上直五郎様

伏見屋藤二郎様

粉屋次兵衛様

権五郎様

至宝院様

喜嘉

和泉屋彦右衛門様

秋葉徳蔵様

金子喜太夫様

白石重郎兵衛様

堺屋吉兵衛様

金子仁右衛門様

俵屋安兵衛様

堺屋卯兵衛様

市野屋初五郎様

栃木屋常八様

藤重郎様

長五郎様

庄右衛門様

新八様

七兵衛様

幸助様

市兵衛様

直右衛門様

内客様

くら松

文左衛門様

武左衛門様

清吉様

立益様

利右衛門様

長蔵様

文蔵様

忠八様

作次郎様

長兵衛様

久蔵様

乙松様

天野様

久八様

幸七様

惣五郎様

杉市様

久太郎様

又五郎様

三右衛門様

善次郎様

長吉様

清兵衛様

まち様

江戸屋様

辰之助様

庄兵衛様

金右衛門様

はな様

内客様

彦六様
湯屋様
とり様
倉持庄兵衛様

一 三百文
半紙二
樽

湯屋
よしの
とりあげ

一 二百文
百文
半紙一

おとり
もり
遣ス

一 金百疋

至宝院

紙式状
是ハ壹分遣ス

一 十五文

しやみ
こま

産育
赤子が誕生すると、靈魂を安定させ、神仏の加護を祈る儀式が行われる。
生後七日目のお七夜には、名前をつけ、命名札を大神宮様の棚に張り、便所神様やお竈（かま）様にお参りさせ赤飯でお祝いする。
初宮参りは、男児三三日目、女児三三日目で、祖母が抱いて氏神様に初参りさせ、氏子の中間入りをする。この時お地藏様や観音様などにもお札参りをする。
このころ親類や組合の人びとを呼んで披露する孫抱きも行われる。
初誕生には餅をつけて祝い、この日までに歩くと餅を背負わせて転ばせる。
初節句には、親元や親戚から人形や鯉のぼり、初正月には、男児は破魔弓、女兒には羽子板が贈られる。

一 十八日
金式朱ト

祝儀

(表紙)

「 嘉永六年

一 十八日
百文
但し百文ハ別

帳場より
杉市座方
遣ス

紐解諸入用控帳

丑十一月十七日

覚

一 十八日
金三分也

帳場より出し
夫ハ□□様

但し平次郎分
安兵衛分

十九日

一 壹貫文

一 貳百五拾六文

一 金貳兩貳分ト

貳拾壹文

一 貳百文

外二 白米五合

あんびん二

一 三百文

和泉や

庄兵衛 ○

あい四ツ

栃木や

常八 ○

あぶらや

藤蔵

肴代

内

内金三兩渡

一 金壹兩貳分ト

九百八文

一 三百八拾六文

又五郎 ○

とうふ

拾壹丁代

惣 金拾貳兩ト

七貫三拾二文

梅鉢屋

伊兵衛殿

荒物代

国田屋

長吉

買物代

まんじゅうや

弥兵衛 ○

諸色代

番人江

遣ス

同 □

金九兩ト

七貫三拾二文

外二

一 壹分

油藤

買物内

青もの

兩二五斗

小豆

壹斗五升

濱田六左衛門

金九兩貳分ト

七百貳百拾四文

□

金九兩貳分ト

七百貳百拾四文

一

兩六斗位

餅白米

三石四斗

兩七斗位

白米

壹石貳斗

酒壹□

半樽

きね

四本

ゆたん

一 貳朱ト

五百文

(裏表紙)

備餅控

覚

一 壺升備

五拾三軒

此米五斗三升

一 壺升五合

式十七軒

此米四斗五合

一 式升備

十式軒

此米式斗四升

一 三升

十九軒

此米五斗七升

一 五升

拾五軒

此米七斗五升

一 七升

四軒

此米式斗八升

一 五升

一 神備

ぬい
小もの

十組

此米五升

式石八斗七升五合

小豆壺斗五升

ゆたん 式朱卜式百文

七百文 そだ代

きね四本七百文

(表紙)

文政十年

おてる祝儀(婚礼)之節控

亥十一月

覚

- 一 金壹分
- 一 半紙貳状
- 一 せん子箱
- 一 貳朱
- 一 半紙貳状
- 一 扇子箱
- 一 貳朱
- 一 半紙貳状
- 一 拾疋
- 一 半紙貳状
- 一 拾疋
- 一 半紙貳状
- 一 手織表地
- 一 半紙壹状
- 一 紫縮緬
- 一 麻 きれ
- 一 紙貳状 貳百文
- 一 麻
- 一 壹朱

- 爪田谷村
- 傳左衛門殿
- 松永屋
- 惣五郎
- 大工
- 乙松
- 伊之助
- 弥兵衛
- 久兵衛
- おふじ
- 上宿
- 嘉兵衛
- 井桁屋
- 平蔵
- いせ屋

- 一 半紙貳状
- 一 鳥目貳拾疋
- 一 麻
- 一 半紙貳状
- 一 紅粉
- 一 壹朱
- 一 半紙貳状
- 一 樽壹升
- 一 青銅三拾疋
- 一 麻
- 一 半紙貳状
- 一 青銅拾疋
- 一 扇子箱
- 一 半紙貳状
- 一 青銅拾疋
- 一 紙貳状
- 一 嶋縮緬
- 一 麻
- 一 花元結
- 一 壹朱
- 一 半紙貳状
- 一 鳥目貳拾疋
- 一 麻
- 一 半紙壹状
- 一 鳥目貳拾疋
- 一 半紙貳状
- 一 金壹両
- 一 麻

- 太右衛門
- 八百屋
- 勝右衛門
- いせ屋
- 午次郎
- かしや
- 松五郎
- 酒屋
- 長兵衛
- くしや
- 金兵衛
- とうふや
- 八十郎
- いせや
- 兵蔵
- 梅鉢屋
- 伊兵衛
- 前
- 辰之助
- 忠右衛門
- 金兵衛

扇子箱

半紙式状

樽

一 鳥目式拾定

麻

半紙式状

一 鳥目拾定

大越屋

ばく

一 式朱

新町

半紙式状

久兵衛

一 式朱

上宿

半紙式状

安兵衛

〆金壹両二分式朱

壹貫八百文

内式分式朱当日

その外なし

一

一 式朱

三ツ又

〃

半紙式状

喜右衛門殿

雛祭り

麻

おまさ

一

一 式拾定

おまさ

一

半紙

あぶらや

一

扇子箱

藤蔵

一

式朱

あぶらや

一

半紙二

あぶらや

一

扇子箱

藤蔵

一

半紙二

あぶらや

一

式百文

あぶらや

一

式朱

あぶらや

一

半紙二

あぶらや

一

式朱

あぶらや

一

式朱

あぶらや

一

式朱

あぶらや

一

式朱

あぶらや

古代には、草・わら・木・紙などで人形をつくって飾り、三月三日の節日（せちち）に川に流すか辻に送る習俗があった。厄払いのまじないがはじまりで、人形で身体をなで、汚れや災いを人形に移して捨てたのである。その根には人柱のいけにえという農耕儀礼があり、火や水の祭りともかわりがあった。

室町時代からこの人形を捨てることをやめ、玩具のひなも発展し、家に飾るようになった。『雛祭り』がはじまったという。

（表紙）

天保三辰年

二月二十八日

喜右祝儀（婚礼）控帳

深井浅右衛門

覚

下

金兵衛

三ツ又

喜右衛門殿

おまさ

あぶらや

藤蔵

あぶらや

新町
久兵衛殿

扇子箱
一 式百文
半紙二状
せんす箱
一 金百疋
半紙二
せんす箱
一 壹朱
半紙二
しら賀
一 式百文
半紙二
一 三百文
半紙二
扇子箱一
一 三百文
式百文樽代
半紙二
一 式朱
半紙二
扇子箱一
一 式朱
せんす箱
一 式朱
半紙二
式朱也
半紙二
せんす箱

かねこ
仁右衛門殿
内牧村
喜大夫
いけたや
久蔵
たたみや
幸七
井上
直五郎
小島
文右衛門
武井
立益
中妻
七兵衛殿
宮内屋
庄吉
川
権治郎殿

一 式百文
半紙二
一 式百文
半紙二
せんす箱
一 壹朱
半紙二
扇子箱
一 式百文
半紙式状
一 式百文
扇子
一 半紙式状
麻
一 式百疋
半紙式
しら賀
一 式百文
半紙式状
一 壹朱
一 式朱
半紙式状
樽
一 壹分
半紙
一 式百文
半紙二

くわしや
原右衛門
もりた屋
庄助
川島
清五郎
来迎院
おさと
東屋
彦右衛門
川島
弥八郎殿
川島
伊右衛門
国田屋
七右衛門
粕壁
吉兵衛
宝殊花
幸右衛門

一 式百文 関宿
 半紙 為右衛門
 一 式百文 向
 半紙二 辰五郎
 一 式百文 天の
 半紙二 権右衛門
 一 式百文 たびや
 半紙二 幸七
 一 三百文 はまだ
 半紙二 六左衛門
 一 式百文 しろ賀 よこ町
 半紙二 忠右衛門
 一 式百文 しろ賀 向
 半紙二 金蔵
 一 式百文 しろ賀 ふじ屋
 式朱 清三郎
 半紙二 乙松
 一 式百文 杉之や
 半紙二 安兵衛
 一 式百文 しろ賀

一 壹朱 まんぢゆや
 半紙二 弥兵衛
 しろ賀

『 端午の節句

端午の節句は、奈良時代に始まり、現代まで続いている伝統行事である。端午とい
 うことは、もともと毎月の初めの午（うま）の日という意味が、いつの間にか五月
 五日だけをいうようになった。
 奈良・平安時代の節句には、宮廷で菖蒲をかざったり、薬草を配ったり、練武の催
 しを行ったりして、病氣や災害にかからないように祈った。
 鎌倉時代は、武士の世の中で、この日は尚武の節句は武士だけでなく、一般の人び
 との間にも取入れられ、男の子の誕生や成長を祝う日としますます盛大になり、現
 在までつづいている。

（表紙）

「 慶応三年

お縫婚礼二付
 祝儀控並立振舞入用帳

卯

十一月二十五日
 深井

覚

| | | | | | | | |
|---|------|------|--|---|-------|--|------|
| 一 | 壹朱也 | | | 一 | 紙二状 | | |
| | 半紙貳状 | 重五郎 | | | あさ | | |
| 一 | 貳百文也 | | | 一 | 四百文 | | 政四郎 |
| | 半紙二状 | 善兵衛 | | | 半紙二状 | | |
| | あさ | | | | 扇子箱一ツ | | |
| 一 | 壹朱也 | | | | あさ | | |
| | 紙二状 | 国田屋 | | 一 | 金壹朱也 | | 庄兵衛 |
| | あさ | | | | 紙二状 | | |
| 一 | 壹朱也 | | | 一 | 金百疋 | | 七兵衛 |
| | 半紙二状 | 長七 | | | 紙貳状 | | |
| | 壹朱也 | | | | あさ | | |
| 一 | 半紙二状 | 清兵衛 | | 一 | 壹朱也 | | 初五郎 |
| | 壹朱也 | | | | 紙二状 | | |
| | あさ | | | | 末広 | | |
| 一 | 貳朱也 | | | 一 | 金貳百疋也 | | 濱田屋 |
| | 半紙二状 | 清右衛門 | | | 外二貳百文 | | |
| 一 | 壹両也 | | | | 半紙二状 | | |
| | 半紙五状 | 堺屋 | | | あさ | | |
| | あさ | | | 一 | 三百文 | | 久太郎 |
| 一 | 貳百文也 | | | | 半紙 | | |
| | 紙二状 | 釜忠 | | | あさ | | |
| | あさ | | | 一 | 壹朱 | | ふじみや |
| 一 | 貳百文也 | | | | 半紙二 | | 久二郎 |
| | 紙二状 | 岩長 | | | あさ | | |
| | あさ | | | 一 | 四百文 | | 木むらや |
| 一 | 貳百文 | | | | あさ | | 重五郎 |
| | 紙二状 | たつ | | | 半紙二 | | |
| | あさ | | | 一 | 金壹分也 | | 梅鉢屋 |
| 一 | 金壹朱也 | | | | あさ | | 喜重郎 |
| | | かま定 | | | | | |

半紙二 金彦朱也
あさ 半紙二
金彦分 扇子箱
半紙二 金百足
扇子箱 紙二状
金式百足 紙二状
あさ 式百文
紙二状 式百文
あさ 式百文
半紙二状 半紙二状
あさ 半紙二状
金彦朱也 紙二状

かさや 勝蔵
あぶらや 藤蔵
直五郎
松永屋
武左衛門
新左衛門
内牧 要八 杉一
いけだや
富五郎 万平

あさ 金百足
扇子箱 半紙二状
金五拾足 半紙二状
あさ 金五拾足
金百足 半紙二状
扇子箱 金百足
あさ 半紙二状
金式朱也

小島
利七
金田屋
八丁目 重郎兵衛
伊兵衛
葛屋
惣吉
政次郎
三右衛門
久八

半紙二
あさ

一 金貳朱也

半紙二
あさ

一 金五拾疋

半紙二
あさ

一 三百文

半紙壹状

一 金五拾疋

半紙貳状

あさ

一 金壹朱也

半紙貳状

あさ

一 金貳百疋

半紙二

外二

折

大吉

平次郎

与惣吉

ふじや

仙蔵

問屋

久兵衛

権兵衛

一 三貫七百十六文

油藤
はらい

一 貳貫六百四十八文

伊兵衛
はらい

一 拾七貫九百四拾八文

豊嶋屋
はらい

是ハ前々から之分

一 金壹兩貳分式朱ト

三右衛門
はらい

拾壹貫二百八十四文

〆金七兩三朱ト

貳貫貳百文

一 金壹兩貳式朱ト

庄兵衛
はらい

八貫五百文

〆

成人式

一 金貳分式朱ト

栃木や
はらい

壹貫六百三十八文

昭和二一（一九四六）年新憲法の発布により徴兵検査制度がなくなったので、男子が二〇才の成人に達したという社会的なはじめが必要となり、同時に男女同権の立場

一 壹貫六百八拾八文

梅喜

から女子にも適用し、昭和三年の春、各地で二〇才になった男女を集めて式典を行なったのははじまりである。
同年七月二〇日に「国民の祝日法」が公布され、一月一日を「成人の日」と定め、翌年から地方自治体の主催で祝いのお祝いの行事が行われるようになった。

はら

半紙二

金三両壹分式朱下
錢四拾七貫四百三十四文

一 〃式朱

〃 仕立や

都合金八両貳分式朱下
百五十六文

一 〃壹朱

〃 □□□

外二

一 貳百文

〃 藤や

一 金壹兩也
□□□肴代

□□□

一 貳百文

〃 藤助

一 〃壹分

座頭

(表紙)

一 〃貳朱

番人

「 皇國一千五百三十七年

一 〃壹朱

仲人供

丁丑(明治十年)

一 〃壹朱

半紙二

三月十一日

一 〃壹朱

〃 〃

祝賀驛礼大豊恵

一 〃壹朱

〃 〃

深井伊智女

一 〃壹朱

〃 〃

目出度

一 〃壹朱

〃 〃

はじめ

一 金壹分

〃 〃

半紙二状

新町

駕籠 祝儀
お半殿

一 金四錢
苧(からむし)

半次郎

一 産初着一ツ
半紙二状
しら賀

三本木
鈴木元益

一 式貫八百五十文

伏見や
うどん粉

記

一 金貳円九拾八錢三厘

吉野屋

金拾三円七拾三錢七厘
金貳円也

表

反物代

秋葉豊次郎殿
七夜祝ひニ付返ス

一 金八拾錢五厘

同人

(裏表紙)

しぼり織

買物代

「長女いち

一 金五拾五錢三厘

高はしや

七夜の

炭代

祝として

一 金六拾四錢五厘

徳次郎

兵一

島代

一 金拾八錢

庄兵衛

花もいち

肴代

蒼さも増して

一 金貳円貳拾貳錢

高はしや

産着鹿の子

福寿草

壱丈八尺五寸

一 金壹兩壹分卜

油藤弘

(表紙)

四拾貳貫百九十文

明治十四年

二月五日

志ち夜祝

浅右衛門

目出度
はじめ

半二状
しら賀

一 金貳十五銭
半紙二状

一 金壹円五十銭
半二状

一 金拾銭
半貳状

一 金五十銭
しら賀

一 金貳十銭
半貳状

一 金貳十銭
しら賀

一 金貳十銭
半一

一 金貳十五銭
半二

一 金十銭

半二

あさ

一 金貳十五銭

半二

一 反物壹反

あさ

一 反物壹反

半二

一 金五十銭

一 初着壹重

半一

一 金拾銭

半二

一 金十銭

一 金十銭
半二

一 金拾銭

一 金貳拾銭
半二

一 金貳拾銭
半二

一 金貳拾銭
半二

一 金拾銭
末広

松永や

惣右衛門

□□□

加藤源八

西原

新井源二郎

高橋久五郎

柚ノ木
深井

いづみや

庄兵衛

わたや

源二郎

やませ
いん居

梅喜

紅や

武井七平

木村重五郎

市川節堂

濱田庄吉

濱田清左衛門

高橋や

定右衛門

かまや

井上万吉

ふじ豊

一 金拾銭

中島千吉

五拾銭

半四

一 金壹円五拾銭

鈴木元益

一 八拾九銭

やませ
払

末広

半二

一 金貳十銭

深井幽吉

一 壹円下
貳拾貳銭

川ばた
払

半二

一 金五拾銭

井上直五郎

一 三拾銭

薦や

『

仲人(なこうど)

『日本書紀』によれば、仁徳天皇の四〇(三五二)年に、天皇が弟の隼別皇子(はやぶさわけのみこ)を仲介として、雌鳥皇女(めとりひめこ)を側室に迎えるよう依頼したのを、仲人の元祖とする。

しかし、この仲人は頼まれた女を自分のものにして天皇に殺されたので、仲人としてのモラルに欠けていた。

仲人としての地位を公的に認めたのは、七〇一(大宝元)年に制定された「大宝律令」が最初である。

その中で、男子は一五才、女子は一三才以上を結婚できる年齢とし、この年齢の男女を媒介するとき、仲人の地位が確立するとしている。

』

『

蕎麦とうどんの値段

(文化一八〇四)以後

もり・かけ 一杯

十六文

花巻 (文久銭四枚出す)

二十四文

あんかけ (四文銭を六枚)

二十四文

あられ (関西ではあん平)

二十四文

天ぷら

三十二文

しつぽく

三十二文

一 六拾銭

ふし久私
たこ

一 壹円下

□□□

五百
玉子とし
御膳せいろ
上酒一合

三十二文
三十二文
四十八文
四十文』

二十五日

(表紙)

明治十四年

浅右衛門端午祝覧

五月

一

浅右衛門

初ノ節句

柚ノ木

深井

一 式十銭

一 拾銭

一 五銭

一 五銭

一 五銭

五厘

一 十銭

二十七日

釜屋

いん居

みよ

とこや

みよ

一

麴屋

麴寫

多一

みよ

のぶ

油藤

多一

中 川通り

多一

中 ぶじや

多一

二十四日

小 清兵衛

下

中 たがや

のぶ

小 徳二郎

みよ

店ノ

隠居

二十五日

| | | | | | |
|---|-------|----|------|--|----|
| 一 | 拾銭 | | 井上 | | みよ |
| 一 | 壹円五拾銭 | 全 | 井上 | | |
| | | | 小直吉 | | |
| | | | 小仙吉 | | |
| 一 | 四銭 | 店ノ | 多一 | | |
| | | | ばく | | |
| | | | のぶ | | |
| | | 中 | 久八 | | |
| 一 | 拾銭 | 小 | 木むらや | | |
| | | | 多一 | | |
| | | 中 | としまや | | |
| | | | ふじ | | |
| | | 下 | 藤一 | | |
| | | 小 | すしや | | |
| 一 | 拾銭 | | 梅鉢屋 | | |
| | | | 多一 | | |
| | | | 高はし | | |
| 一 | 拾銭 | | くわしや | | |
| | | | みよ | | |
| 一 | 貳拾銭 | | 市川 | | |
| | | | 多一 | | |
| | | | 二十九日 | | |
| 一 | 四銭八厘 | 店ノ | | | |

| | | | |
|--|---|------|------|
| | | | 留五郎 |
| | | | のぶ |
| | | | おかく |
| | 一 | 四銭 | のぶ |
| | | | 善一 |
| | 一 | 五銭二厘 | みよ |
| | | | 外二 |
| | | | 来迎院 |
| | | | みよ |
| | | | 明神社 |
| | | | みよ |
| | | | いせた |
| | | | 多一 |
| | | | 横町 |
| | | | 一里塚 |
| | | | 式斗 |
| | | | 三升五合 |
| | | | きんとき |
| | | | 餅米 |
| | | | 一拾銭 |
| | | | 一二拾銭 |
| | | | 一三拾銭 |

『 結納(ゆいのう) 』

「日本書紀」に、履中(りちゆう)天皇が皇太子のとき、羽田矢代宿禰(すくね)の娘黒媛(くろひめ)を妃にするため「納采」を済ませたという記述があり、これが後世の結納である。

』

(裏表紙)

「 北葛飾郡清地村

深井氏

『 お色直し

花嫁が披露宴で、衣装を着替えることを「色直し」という。婚家の家風を意味するもので、式服を着替えて再び披露宴にあらわれたことは、「婚家の家風の色にかわりました」という、花嫁の意志表示である。

(表紙)

「 明治十六年

伊左右治初ノ節句

未

五月吉日

覚

未

四月二十八日

一 小

木むらや

一 拾銭

一 中

一 〃

一 〃

一 〃

一 拾銭

一 〃

一 〃

一 〃

一 〃

一 〃

一 〃

一 拾銭

一 〃

ば

きむらや

弁吉

ふじや

千吉

国田屋

ふしみや

植木屋

油藤

油佐

へいや

川崎

はまだや

高はし

井上万吉

いん居

また喜

中

七平

いせた

横町

かまや

新町

たか

梅鉢や

山中

麴屋

一 式拾銭

由ノ木

一 刀小

下 深井

清蔵

一 式拾銭

しん町

いろうえ

一 式拾銭

中はたや

ふじ仙

一 拾銭

幸三郎

たがや

一 拾銭

いげたや

徳二郎

一 五銭六厘

釜や

いん居

一 四銭

善兵衛

一 刀

しげすし

一 式拾銭

一里塚

一 四せん

市川

おかる

明治二十九年

出産見舞 (堀口義一) 控帳

第十月二十一日

正午十二時出生

(深井兵治孫)

目出度

はじめ

井上きく

稲葉善兵衛

深井礼助

高橋要七

関口一郎

大作浅蔵

高橋久五郎

深井喜治

青木晴五郎

五銭位

岩崎兵左衛門

十月二十三日

一 着物一枚

一 最中

一 窓の月

一 黄島

一 七尺二寸

一 二十五日

一 かんぴよう

一 五銭

一 二十日

一 さとう

一 かんぴよう

一 さとう

二十七日

一 さとう

大作徳次郎

伊左雄出産見舞控帳

一 さとう

後藤佐一

十月六日正午出産

一 メリンス

阿部生く

記

かた切

いんげん豆

一 さとう

ふか野なみ

一 さとう

国井清蔵

一 砂糖

更沙九尺五寸

伏見屋

一 さとう

国井清蔵

一 二十九日

濱田関右衛門

一 焼米

高橋要七

一 かんぴょう

濱田初五郎

菓子折

一 砂糖

濱田善吉

かんぴょう

一 砂糖

鈴木元益

中綿二枚

一 一切

鶴巻多吉

砂糖

川島

一 そをめん

紅屋

一 干瓢

深井はつ

一 菓子

山本留吉

一 砂糖

深井五左衛門

一 四銭位

川嶋

砂糖

関口仁輔

一 一切

井上

砂糖

後藤佐市

一 さとう

横町

砂糖

梅喜

一 さとう

小島禄四郎

菓子

濱田みよ

一 さとう

横町

うどん

三お

一 さとう

小島禄四郎

砂糖

三お

(表紙)

明治二十八年

一 砂糖
一 桃色
一 木綿壹反
一 菓子折
一 十目
一 八尺
一 十目
一 フランネル
一 大巾五尺
一 餅
一 十一日
一 干瓢
一 白玉
一 小三袋
一 木綿
一 六尺
一 うどん
一 三わ

武井すい

高橋や

加藤寿作

となりの

おせいさん

井上傳次郎

片野寿

鈴木長三

大高志げ

大作寿

鶴巻

濱田関右衛門

菓子袋

十一日

ぼうせき

一丈二尺

紐袖口共

十二日

菓子折

十二月十二日

糸織半反

木綿板

壹丈一尺

砂糖

砂糖

干瓢

あさのは

メリンス

一丈

十二日

玉子

十一

砂糖

菓子

砂糖

十四日

深井なつ

原田銭松

いげたや

東京

井上賢次郎

井上直吉

武井永太郎

三本木

鈴木金平

藤森三蔵

加藤国三郎

恩地

甘利

相川

小野寺

大作松三

大作徳次郎

藤倉三右衛門

武田平次郎

| | | | | | |
|---|-------|---------|---|-----|--------|
| 一 | 更沙 | 木綿や | 一 | 掛物 | 濱田関右衛門 |
| 一 | 十五日 | 深井こう | 一 | 貳拾銭 | 藤森三造 |
| 一 | 砂糖 | 青木源八 | 一 | 拾銭 | 深井礼助 |
| 一 | 砂糖 | 深井林平 | 一 | 貳拾銭 | 濱田や |
| 一 | 干瓢 | 小林元助 | 一 | 弓 | 下の |
| 一 | 十六日 | 石神 | 一 | 三拾銭 | 高橋や |
| 一 | 砂糖 | | 一 | 菓子折 | 深井こう |
| 一 | 菓子折 | | 一 | 拾銭 | 高橋や |
| 一 | 十七日 | | 一 | 十銭 | 深井こう |
| 一 | うどん | 善兵衛 | 一 | 拾銭 | 三本の |
| 一 | | 中ス | 一 | 貳拾銭 | 鈴木長造 |
| 一 | さとう | 深井けい | 一 | かけ物 | 三 |
| 一 | うこん八尺 | 山本 | 一 | 日 | すすき |
| 一 | ほしうどん | 国井初太郎 | 一 | かけ地 | 加藤寿作 |
| 一 | 糸織半反 | 東京 | 一 | 前人形 | 山本 |
| 一 | 拾銭 | 伊藤平蔵 | 一 | ゆず | 井上 |
| 一 | 拾銭 | いげたや | 一 | 拾五銭 | 和泉屋 |
| 一 | 拾銭 | すい | 一 | するめ | 大作徳次郎 |
| 一 | 拾銭 | なつ | 一 | 半紙二 | 小間物や |
| 一 | 拾銭 | (川) 徳二郎 | 一 | 中半 | 鶴巻告五郎 |
| 一 | 拾五銭 | 国井初太郎 | 一 | 貳拾銭 | 高橋や |
| 一 | 貳拾銭 | 和泉や | 一 | 破魔弓 | |
| 一 | 弓 | 後藤佐市 | 一 | 三拾銭 | |
| 一 | 貳拾銭 | | 一 | かけ地 | |
| 一 | | | 一 | 貳拾銭 | |
| 一 | | | 一 | 拾銭 | |
| 一 | | | 一 | 弓破魔 | |
| 一 | | | 一 | 三拾銭 | |

伊左雄の弓濱 (弓破魔)

一 弓破魔

一 五拾錢

一 弓破魔

一 拾五錢

一 十錢

一 はし切

一 貳拾錢

一 拾五錢

一 金壹円也

一 拾五錢

一 嶋切八尺

一 三拾錢

一 ほしうどん
十五

一 中形一反

伏見や

鶴巻久作

井上傳次郎

川

三右衛門
堀口貞三

源八

深井五左衛門

市川

善兵衛

はつ

はな

しげ

けい

一 金壹円四十錢

伊藤
お備ひ餅

一備

井上
三升
するめ

五杷

一 金九拾三錢
五厘

伊左雄ノ祝

弓濱(弓破魔)控

一 掛物弓

貳拾錢 端午祝

濱田関左衛門

一 拾錢 魔

貳拾錢

(表紙)

明治四十一年

春枝出産見舞控

一 金五円

壹升餅
餅米

三斗六升

金時

四升

取りあげ

婆さん

二月二十一日

出産

記

一 金壹円

外二半紙二状

一 小豆壹升

川島

一 仝
 一 二子一丈
 一 砂糖
 一 鯉節
 一 親王一組
 一 神功皇后
 一 三番
 一 汐汲
 一 座りびな
 一 座り雛
 一 仝
 一 仝
 一 金時
 一 金式拾銭
 一 座り雛

節句

深井重五郎
 井桁や
 木野屋
 小使
 木塚殿
 同人
 糯米
 三斗式升五合
 金時
 四升
 三本木
 井上傳
 仝直
 濱田六
 和泉屋床
 梅喜
 羽島藤次
 油佐
 市川
 青木源八
 濱田実
 仝清
 米屋
 お母さん
 初大工

一 高砂
 一 神功皇后
 一 二十四孝
 一 座りびな
 一 仝
 一 蝦茶式部
 一 金時
 一 鯛釣
 一 白木綿
 一 汐汲
 一 仝
 綿帽子
 ふみさん
 隣り
 鶴巻吉さん
 小間物や
 豆腐や
 掛掛や
 善兵衛御爺
 徳爺
 すい婆
 伏見屋
 三本木
 餅屋
 中須
 深井
 川島
 豆腐や
 紅屋
 深井五左衛門殿
 山本知定殿
 お夏

江戸時代の中ごろから花嫁の結婚式服に綿帽子を用いるようになった。これはわた
 ではなく、紅白の絹が裏表になっており、頭からすっぽりかぶって顔全体を隠す形で

ある。

嫉妬の角を生やさぬまじないにかぶる。

羽子板

一 押絵 豆腐や

一 〃 吉五郎

一 〃 油佐

一 〃 井傳

一 メリンス 井上直

一尺五寸

一 押絵 鶴巻ふみ

一 押絵 小間物屋

一 砂糖袋 濱田屋

一 書き絵 川島

綿屋

一 書き絵 伏見屋

一 黄縞 三本木

一丈二尺

一 カケ物 徳次郎

一 カケ物 濱田関右衛門

一 押絵 大作松次郎

一 金拾銭 おすいさん

一 金拾銭 深井こう

『

嫁入り

嫁を迎える時は、杵と豆殻を準備する。嫁が到着すると豆殻を燃やし、杵を跨がせ、近所の人が箕で扇ぎ、箒で掃きこいで家に迎え入れる。敷居を跨いで姑と杯を交わす。座敷に上がって雄蝶、雌蝶とよぶ男女児のお酌で三三九度の杯を交わす。

入家してすぐお籠（かま）神様を拝ませる所もある。

一・三・五・七・九という奇数は、陽数といつてめでたいものとされ、三が三つ重なった三三九度は、最高のめでたさを意味する。

』